

# 『そこから先は別世界 妄想映画日記 2021 - 2023』

樋口泰人 著

**12月25日発売**

母を失いつつあり、わたし自身も病に伏せていた真夜中、この日記に辿り着いた。  
そこには盟友が死に親友が倒れ、自らもまた病を得た著者が、満身創痍で奔走する日々が綴られていた。  
あらゆる失われの最中だからこそ光ってみせるものがあった。  
それをただ見つめる著者の言葉はそのままわたしの希望になって、生きるためのちからをくれた。  
川上未映子(作家)

爆音映画祭プロデューサー、映画の製作・配給・宣伝、レコードやライブの企画・制作、書籍の出版など、中心を欠いた活動を続ける「boid」の社長でもある映画批評家・樋口泰人。  
コロナ禍での経済的打撃や友人たちの死、そして自身の病といった苦境の中で聞こえない声に耳を澄まし見えない何かに目を凝らしいるはずのない何かとともに新たな「生」を生み出し続けた3年の記録。  
\*日記はWEBサイト「boid マガジン」 [magazine.boid-s.com](http://magazine.boid-s.com) にて連載継続中

## 樋口泰人 (ひぐち・やすひと)

1957年生まれ。映画批評家、爆音映画祭プロデューサー。1980年代から雑誌媒体を中心に映画評・音楽評の執筆を開始。雑誌「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」編集委員を経て、1998年にビデオ、書籍、CDなどを製作・発売するレーベル「boid」を設立。2004年から東京の映画館・吉祥寺バウスシアターで、音楽用のライブ音響システムを使用する爆音上映シリーズを企画。現在は、2008年からスタートした「爆音映画祭」を全国的に展開中。2014年にWEBマガジン「boid マガジン」を創刊。また2020年から、より小さな動きと声を伝える新レーベル「Voice Of Ghost」を自社内に立ち上げ、映画作品の製作・配給・宣伝・配信、音楽メディアやライブの企画・制作なども手掛けている。単著に『映画とロックンロールにおいてアメリカと合衆国はいかに闘ったか』（青土社）、『映画は爆音でささやく』（boid）があり、共編著多数。共同プロデューサーを務める映画『BAUS 映画から船出した映画館』（浦木元空監督）が2025年公開予定。

[製作・発売：株式会社 boid]

番線印	ご注文	発行：boid	分野
	冊	そこから先は別世界 妄想映画日記 2021-2023 樋口泰人：著  A5 変形判 並製 本文 496 ページ 定価：本体 3,800 円＋税 <b>新刊</b> ISBN 978-4-9912391-4-4	音楽・映画 小説・エッセイ
	ご担当  様		出荷条件： 返品条件付 注文扱い

ご注文・お問合せは JRC へ お申し込み FAX 03-3294-2177

JRC 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-34 風間ビル 1F

TEL：03-5283-2230 E-mail：info@JRC-book.com

詳細：[www.boid-s.com](http://www.boid-s.com)

\*全ての取次ぎへの出荷可能です。